

(熊本県立大津高等) 学校 令和 4 年度 (2022 年度) 学校評価表**1 学校教育目標**

教育基本法の理念、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」及び「学校安全・安心推進課取組の重点」に基づき、綱領「向学、誠実、敬愛」の具現化に努め、21世紀を担う有為な人材の育成を目指す。この目標達成のため本年度の学校経営目標を以下のように定め、知・徳・体の調和のとれた「求める生徒像」の実現に努める。

**「希望が輝く学校」****(1) 理想とする教育理念**

綱領「『向学』以って真理を求め『誠実』以って責任に徹し『敬愛』以って礼儀を正す」の具現化に努め、「不安定で予測不能な未来」であっても、柔軟に対応できる、21世紀社会において有用な人材の育成に努める。

**(2) 求める生徒像****ア「文武一体」の体現**

自ら将来や課題について主体的に考え、進路実現や自己実現に向け、ひたむきに努力を行い目標に向けてやり抜く力を持った生徒。

**イ「凡事徹底」の精神**

あいさつや掃除の徹底など、基本的な生活習慣を身に着け、人との出会いを大切にし、自己の研鑽を継続できる生徒。

**ウ「恕」の心**

命の大切さや自然を慈しむ心を持ち、他者を思いやる健全な人権感覚を身に着け、多様な価値観を受け入れることができる生徒。

**2 本年度の重点目標****ア 学力の向上と進路指導の充実**

生徒自らが主体的に目標を設定し、教職員の援助を得ながら、自己実現に向かって邁進するための学力の定着と指導の徹底を図る。

**イ 部活動の活性化と自主性の尊重**

各部活動の活性化と通し、生徒の「人間力」を高め、規範意識を確立し、学校・家庭・地域社会への感謝の心を醸成する。

**ウ 「あいさつ」「そうじ」等を基盤にした生徒指導の徹底**

「他者とのつながり」の「他者への感謝」の心を重視し、あいさつ・そうじといった基本的な生活習慣を徹底させ、社会に認められる人材を育成する。

**エ 「思いやりの心」「慈しむ心」を育む道徳教育・人権教育・特別支援教育の推進**

SDGsの理念を理解し、多様な価値観を認め、社会の形成者として、主体的に社会に参画しようとする態度を育成する。

**学校教育目標及び目指す教職員像****ア 学力の向上と進路目標の向上に向け、授業力の向上に努める教職員****イ 生徒の自主性を基盤とした部活動の活性化を通じた活みなぎる学校****ウ 生活指導を通して、生徒の規範意識を醸成し、主体的に行動する生徒を育成する学校****エ すべての教育活動において、生徒の人権が尊重される学校**

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(△)
大項目	小項目					
学校経営	学校力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育プランや教育大綱を意識し本校スクールポリシーに即したカリキュラムの再を行う。</li> <li>校務分掌間の連携を深め、コミュニケーションの充実や各学年部とそれを支える各分掌、教科との連携を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールポリシーを意識した学校行事について、カリキュラム・マネジメントを行い、より意義を意識した取組を作り上げる。</li> <li>校務分掌をまたいだ内容を議論し、多様な進路希望に対する教育課程を含めた取組を深める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グラデュエーション・ポリシーを達成目標として、既存各行事をそのための活動として位置づけつつなげる取り組みを行い、行事の偏りなどが明らかになった。</li> <li>○各科・コース等のグラデュエーション・ポリシーを念頭に置いた実践を行った。理数科研究発表大会への参加、体育・美術コースの校外での実習を行うことができた。</li> <li>○校務分掌及び教科をまたいだ特命プロジェクトを招集し次年度の方向性を検討することができた。</li> <li>△生徒の多様な進路に対応するための教科等の対応はできているが、教員個々の力量に頼っている側面がある。教育課程に基づく学級編成、授業展開等組織的に年々変化する生徒像に対応する必要がある。</li> </ul>
		生徒の夢実現のための取組	部活動の統廃合や新設、主体的・能動的な運営ができる生徒会組織作り等生徒の活気溢れる学校作りに生徒と教職員が一体となって取り組み、9割の生徒の満足感を得る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100周年を機に生徒の意見を重視した生徒会活動を推進し、生徒の自律や主体性を育成する。</li> <li>・互いに認め褒め合うことを推奨し、働きやすい学校風土を醸成する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○式典におけるオープニングセレモニーや司会、受付、講演会など、各担当者で生徒が主体的に関われるよう出番をつくっていただいた。</li> <li>○コロナ禍の折、職員間のコミュニケーション不足が懸念される中、100周年という節目の年を本校で迎えることができることを誇りに感じる職員の雰囲気醸成できた。</li> </ul>
		魅力の情報発信	ホームページの充実と学校便りの発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページによる情報発信の方法について検討し、内容、見せ方、の両面で充実した学校ホームページとする。</li> <li>・本校の魅力を発信する方法を検討し、学校便りなどの伝え方を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科コース、部活動等の結果をPRし、情報を随時更新する。重要な情報へのアクセスのしやすさなども検討しより独自性を出したホームページにする。</li> <li>・通信(「美コース便り」、「天津高校いいね!」等)を発行、近隣中学校や役場等「地域」へ配付して本校の魅力を発信する。</li> </ul>	A

	業務改革 働き方改革	勤務時間打刻調査による時間外勤務時間の減少	<p>業務の偏りを無くし、勤務時間外業務時間を減らす。また、職員が生徒と向き合える時間を確保する。9割以上の職員が「意欲的に仕事ができる」と回答する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の衛生委員会を確実に実施し課題について解決策を提案する。</li> <li>・働き方改革アドバイザーを導入し校内の課題や解決方法について外部の視点で取り組む。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○月1回の衛生委員会を実施し、各職員の勤務状況等について、情報の共有と改善に努めている。</li> <li>10月までの時間外勤務平均46:40 (R4) ←45:39 (R3)</li> <li>○外部アドバイザーを導入し、7月にアンケート、8月に校内研修を行い、外部からの視点で、校務の状況を見直すことができた。</li> </ul>
学力向上	基礎学力の向上	分かる授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着と生徒の学習意欲の向上を図る授業を展開し、8割の生徒が「授業は丁寧で分かりやすい」と回答する。</li> <li>・生徒対象の授業アンケート複数回行い、各授業の改善につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各テストを授業へ反映させ、基礎基本の徹底を図る。</li> <li>・学期末にGoogle Formsを活用して生徒がすべての授業について、「自身の取り組み」と「教員の授業」を評価する授業評価を実施してその結果を授業改善に活用する。</li> <li>・外部での研修や校内外の公開授業等へ積極的に参加し、授業力向上に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1学期末に、全生徒から全授業に対する授業評価アンケートを実施した。大項目として「生徒自身の学びへの評価」、「教員が展開する授業への評価」を行い、特に授業への評価については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう態度」の他、ICT機器の活用について、生徒の自由記述による「わかりやすい取り組み」を職員内で共有した。</li> <li>○初任者研修、教育センターとの共同研究に係る研究授業等が実施され、職員が自らの授業を見つめなおす契機となる機会が多くあった。</li> <li>○探究活動についての公開授業や近隣小中学校などの取り組みに参加できた。</li> </ul>
		学習習慣の確立	自主的・自発的な学習の支援を充実し、生徒の学習習慣が定着する。(1・2年は2時間、3年は3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談等を行い、個に応じた家庭学習について指導する。</li> <li>・スタディサプリやClassiの活用を図る。</li> <li>・家庭学習時間の調査を行い、定期考査や模擬試験結果との相関関係を調べる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年度当初の面談週間を、進路指導部の希望に応じて例年通り実施できた。</li> <li>○年度当初の短縮授業による面談時間の捻出は生徒の自習時間の確保にもなった。</li> <li>△年度途中に振り返りや再点検について、担任が生徒たちとゆっくりと面談する時間がとれてなかった。</li> <li>○スタディサプリは年度当初希望を募り、家庭学習教材として活用できた。※次年度は廃止。</li> <li>○Classiを用いて、教科で課題を配信できた。※次年度は廃止。</li> <li>△考査前に調査を行い、クラス別・教科別に状況を確認することはできたが、比較検討するまで至っていない。</li> </ul>
	授業の充実	研究授業等の実施	研究授業の実施や外部公開授業や研究会への参加等で授業の改善を図り、8割の生徒が「授業は丁寧で分かりやすい、授業は自分の興味・関心を高めてくれる」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回研究授業と公開授業週間等を実施する。</li> <li>・全職員が学期1回以上授業を参観する。</li> <li>・1人1台端末やICT機器の効果的な活用ができている授業の実践を他の職員に紹介して、取り組みを広げる仕組みを作る。</li> <li>・スーパーティチャーの活用を進める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1人1台端末の効果的な使い方ができている授業については、学期末実施の授業評価アンケートから、生徒の自由記述で評価が高い情報の共有を図った。</li> <li>△各種の研究授業等を実施できたが、授業が重なり全職員が1回以上ずつ、ということ徹底できなかった。</li> <li>○初任者研修、経験者研修の一環として研究授業を実施して、授業の質の向上等職員が意見交換する機会を持つことができた。</li> <li>△コロナ禍のため、外部への公開授業については11月の学校説明会の際に、中学校の先生方を対象として行ったのみとなってしまった。</li> </ul>

						○スーパーティーチャーについては、物理と英語についてオンラインで研修に参加できた。
キャリア教育 (進路指導)	進路指導の 充実	自己実現への 意欲の喚起	生徒・保護者に対する進路情報の提供、大学等との連携等を通し、進路意識の高揚を図り、8割の生徒が「進路志望先を定めその達成のための努力をしている」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路の手引」を充実し、新大入試制度に対応しているものとしている。一年次から三者面談やその活用を図り、進路意識の高揚に努める。</li> <li>・大学や専門学校等と連携し進路ガイダンスや出前授業、進路講演会等を学年のニーズに合わせて実施し内容を充実する。</li> <li>・新大入試制度への対策として、新テストに向けた授業改善や1、2年生の朝の課外授業を早期に開始する。</li> </ul>	A	<p>○4月、5月で「進路の手引き」を作成し、夏休みの三者面談や二者面談で活用できるように用意した。就職から進学まで幅広い生徒のニーズに沿った入試の形態や受験の流れ、本校生の状況について周知した。</p> <p>○熊本大学、熊本県立大学による出前授業やベネッセ、北九州予備校、壺溪塾による公務員、進学、共通テスト対象の進路講演会を実施した。現状や分析を話していただく中で、進路意識を高められた。</p> <p>○2、3年生は年度当初の計画よりも早期から課外を実施した。</p> <p>△希望者による課外のため、受講していない生徒の進路意識や学力に課題がある、模試の結果を面談で共有し、意識改善に努めたい。</p>
		個別指導の 充実	個に応じた指導体制の充実を図ることで、生徒一人一人の進路意欲が高まり、8割の生徒が「進路実現に向けての個別指導が充実している」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任への大学や専門学校について情報提供を増やして、面談等を通し生徒の進路意識を高めるとともに、個々の生徒の目標について情報の共有を行う。</li> <li>・外部による教科分析を中心に学年に応じた目標の設定と個別指導の計画、教科と連携した指導体制を確立する。</li> <li>・Classiの活用を図る。</li> <li>・予備校と提携し、学力向上のために夜学を実施する。</li> </ul>	A	<p>○Classiを用いて、大学や専門学校の情報を全職員に提供した。面談等でも活用いただいている。新テスト、新課程と入試が変わる部分もあるので、生徒、保護者、教員で情報を共有していきたい。</p> <p>○年度当初、基礎学力テストをもとに、ベネッセから分析していただき、活用法の紹介、職員間での情報の共有を図った。3年生の検討会では、生徒一人一人の進路希望状況や学力状況の共有、今後の対策を検討した。</p> <p>○教科で、Classiを活用した課題の配信、部活動や課題研究の活動状況のポートフォリオ作成を行った。</p> <p>○1、2年対象に夜学を実施し、50名程度の参加があった。受講した生徒には、好評であった。</p> <p>○初めて鹿本高校と連携して学習会（12年対象）を実施できた。</p> <p>△進路意識や学力が二極化している現状を踏まえ、今後、夜学の参加者数を増やしていくことが課題である。</p>

生徒指導	健全な心身の育成	基本的な生活習慣の確立	<p>あいさつや掃除、言葉遣い、身だしなみの整備、交通ルール・マナー等、凡事徹底の積極的な実践によって、8割の生徒が「ルールを守っている」と回答する。</p> <p>携帯電話、スマートフォン等の適切な使用方法の定着を図り、8割の生徒が「ルールを守っている」と回答する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に対しては、日常的な声掛けとその場の指導を心がけ、職員に対しては、生徒情報の共有と学化と強化を図る。</li> <li>外部講師による情報モラル講話、生徒指導主事講話、生徒指導部通信を通して、携帯電話やスマートフォンの適切な使用方法を発信する。</li> <li>定期的な登下校指導を通して、交通ルールの順守の徹底を図る。</li> <li>生徒会やPTAと連携し、大高ルールとなっている「午後10時以降のスマホ・携帯電話の使用禁止」の周知とその順守の徹底を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校指導における声掛けとあいさつ指導、各HRや集会等で継続的な服装指導を行っている。</li> <li>生徒指導主事が職員室に常駐することにより、学年主任と密に連携が取れ、生徒の情報共有がしやすくなった。</li> <li>NTTドコモのスマホ・ケータイ安全教室を活用し、1学期のLHRにおいて全校生徒に対し、リモートで情報モラル講話を行った。事例を重視した内容でわかりやすく、生徒から概ね好評であった。</li> <li>4月に街頭交通安全指導を計画し、登校経路についての確認と指導を行った。また、正門前での登校指導において交通指導を継続して行っている。自転車に関しては、学校周辺における車道の走行、左側通行が概ねできている。</li> <li>△大高ルールの周知が十分にできていない。今後、生徒会と連携し、周知と順守のよびかけを行う予定である。</li> </ul>
		生徒会活動、ボランティア活動の充実	<p>自主的な行事等の運営と校外のボランティア活動への参加を促し、8割の生徒が「積極的に参加している」と回答する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会が主体となった行事の企画・運営を増やす。</li> <li>各種ボランティアの紹介による積極的な参加を促す。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度に引き続き、生徒が中心となる学校行事（体育大会、文化祭、クラスマッチ等）については、生徒会が主体となって企画、調整、運営を行った。</li> <li>新たな取組として、毎週火曜日に保育園での読み聞かせボランティアを行っている。学年や男女を問わず参加希望が多く、生徒からは概ね好評である。</li> </ul>
		健康教育、環境教育の充実	<p>保健委員会活動の充実や積極的な美化活動への取組、学習環境の改善に向けての意識の喚起を図り、8割の生徒と教職員が「校内美化やエコ活動に取り組んでいる」と回答する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健、美化委員会を中心とした掃除の方法等の紹介や環境教育の充実に努める。</li> <li>日課表の変更に伴う掃除時間の変更に対して保健部会において、状況を把握し、各学年やクラスでの環境美化に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員会の文化祭での睡眠に関する発表や美化委員会のゴミ回収システムをゴミステーション方式に変更する等、今ある課題を改善し、より良い方策を検討しながら活動できた。</li> <li>各教室のSSK-P(学習環境整備プラン)年間掲示や学期末のSSK-P点検の周知徹底を促し、目的を十分理解してもらったことができた。</li> </ul>
人権教育の推進	人権尊重の意識の向上	人権教育の充実	<p>自他の命を大切にしている心の育成と、人権問題を意識した教育活動について、8割の教職員が「積極的に実践している」と回答する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期に一度の人権LHRの充実に限らず、昨年度の校内職員研修で再確認した「各教科における人権教育の視点」をそれぞれの職員が意識し、日々の授業実践に取り組む。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期に一度の人権学習LHRでは、各学年と協力し、身につけさせたい力を明らかにし、そして他人事ではなく、自分事としての学習を意識した取り組みを重ねることができた。</li> </ul>

		職員研修の充実	個別の教育支援計画、個別の指導計画を完備し、配慮を要する生徒を支援するための情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教頭、主幹教諭を含めたメンバーで構成する「教育相談部会」を毎週実施し、配慮を要する生徒への支援を協議し、個別の支援計画、指導計画の充実に繋げる。</li> <li>・個別の配慮が必要な生徒に関して、情報の共有意識を高めるため、年に2回の職員研修を実施する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 困り感をもつ生徒について部会で情報共有することで、SCとの面談等へ早期につながる事ができた。個別の支援計画等についても、担任の先生方に作成をしていただきながら、学年や教科担当者で共有することができた。</li> <li>○ 学校生活での困り感について、中学校から引き継ぎがあった生徒の情報を1回目の研修で共有することができた。</li> <li>○ 入学後に生徒の困り感が顕在化する事例が多い。情報共有でき、職員の負担を軽減できるのか？会議などで他校の取組を聴き、職員研修を実施できた。</li> </ul>
	命を大切にす る心を 育む指 導	プログラ ムの改 善と実 践	自他の命を大切に する心の育成を意 図する教育活動を 教職員全員で実践 する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員が、自らの教育活動の機会を捉えて、「命」や「どう生きるか」ということを、学期に1回生徒に語る場面を設ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1学期に「命を見つめる日」、2学期に「怒のこころウィーク」を実施し、命の大切さを学ぶ教室などを通して、命について考える場面を設定するとともに、生徒と教職員の意識向上を図った。</li> </ul>
いじめ の防 止 等	いじめ を し な い 、 さ せ な い 、 許 さ な い 姿 勢 の 確 立	いじめの未 然防止	自己肯定感を高め、 他者理解を深める 教育活動を実践 することで、9割 の生徒が「学校は 楽しい」と回答す る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに面談旬間を設け、生徒が困っていることや不安なことを聞き取り、生徒理解に努める。</li> <li>・いじめの防止等に関する職員研修を実施する。</li> <li>・体験活動、ボランティア活動を通して、自己有用感を涵養する。</li> <li>・学年毎に生徒の実態を踏まえ、自己肯定感や他者理解を高めるストレス対処教育に係るLHRを実施する。</li> <li>・SNS等が適切に使用できるよう、外部講師による情報モラル講話や生徒指導主事講話、生徒指導部通信を通して発信する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4月から5月にかけて実施された面談旬間（二者面談）において生徒理解に努めた。</li> <li>○ 中央研修に参加した職員による復講を兼ねて、3学期に職員研修を実施した。</li> <li>○ 例年の活動に加え、阿蘇草原での牧野作業体験、ヤング街頭キャンペーン、大津いちご保育園読み聞かせボランティアなど、学校外での体験活動、ボランティア活動を充実した。</li> <li>△今年度はLHRに組み込むことが難しかった。次年度は各学期に1回は実施できるよう準備を進める。</li> <li>○ 欠席が多い生徒とその保護者には、担任と学年主任で面談を行っている。聞き取った困り感を学年で共有し対応している。</li> <li>○ 予防対策として、2学期末考査で学年終礼を実施し、生徒指導主事講話を予定している。</li> </ul>
		いじめの早 期発見	いじめの早期発見 につなげるため、「 心のアンケート」 を実施し、積極的 ないじめの認知に 努めるとともに認 知したいじめ事案 の早期解消を図る 。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期毎に「心のアンケート」を実施し、その結果について、事案の検証と認知を速やかに行う。</li> <li>・担任による個別面談をこまめに実施する。</li> <li>・情報集約担当者について生徒や保護者に周知し、相談しやすい環境を作る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1学期は学校独自の様式、2学期は県指定の様式で、ともに期末考査の初日に実施した。その後、いじめがあったと回答した生徒から担任が聞き取りを行い、いじめ防止等対策委員会において情報を共有するとともに認知についての判断を行っている。</li> <li>○ 1学期、2学期ともそれぞれ1回以上の個人面談を行っており、早期発見に勤めている。また、教室に入れない生徒へは養護教諭とや保護者と連携を密にし対応している。</li> <li>△面談週間以外でクラスLHRをとる機会が少なかった。</li> <li>○情報集約担当者については</li> </ul>

						<p>年度初めの集会で周知できた。</p> <p>○生徒指導主事が担当と兼ねているが、受容的であり、相談しやすい生徒対応ができています。</p>
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	学校運営協議会の実施	地域や各機関との連携を生かした学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会ではできるだけ多くの観点から意見をいただき、職員と確実に共有し、可能なものから即実現に移す。</li> <li>地域の行政や企業などと積極的に連携し、進学後のキャリアを見据えた全人的なSTEAM教育のカリキュラムを開発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会後の確実な実施</li> <li>委員からの提言を具現化するステップを確立する。</li> <li>探究を中核にした全体的なカリキュラムをカリキュラム・マネジメントを実践し開発する。</li> <li>各学科コースに応じた地域連携の実践を充実させる。</li> </ul>	B	<p>○学校運営協議会での意見をもとに、近隣中学校との交流の活性化することができた。</p> <p>○探究活動の見直しを実施し、行政や企業などとの協力を行うことができた。(普通科・理数科)</p> <p>△カリキュラム・マネジメントに関しては、校内の体制と外部との連携をさらに進める必要がある。</p>
	防災教育の推進	生徒の防災対応能力の向上	<p>防災教育を通じて、安全な社会づくりに参画する態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム・マネジメントの視点をもって防災教育を実施する。</li> <li>防災マニュアルの改訂を行う。</li> </ul>	B	<p>○防災避難訓練とシェイクアウト訓練を計画通り実施することができた。生徒の防災意識の向上に繋がった。</p> <p>○1年生のLHRでマイタイムラインを作成させた。</p> <p>○防災マニュアルの大規模改定作業を行っており、8月末に職員に周知志検討段階に入ることができた。</p> <p>△防災教育を全職員で意識して実践されている状況ではない。今後防災主任を中心に取り組む必要がある。</p>

#### 4 学校関係者評価

学校運営協議会委員の主な意見

- 大津高校がいろいろな取り組みをして素晴らしいと思う。
- 素晴らしい「スクールミッション・スクールポリシー」なので、機会があるごとに生徒と共有するとよい。生徒会から理解を深めるための取組等を提案するとおもしろいのではないか。
- 「職員間の雰囲気がいよ」ということは大切なことだ。働き方改革が進み、在校時間が減る中で、意識的に同僚性の構築を図る必要があることを常々感じており、自校でも大津高校の取組を参考にしたい。
- 家庭学習の習慣化が図られていないことについては、中学校としても責任を感じている。本校でも、スマホやゲームを1日4時間以上する生徒が17%もあり、保護者と連携しながら、改善していければと考えている。
- 来年度も今年度以上に中高の交流・連携を意識した取組をしたい。
- 「第3の制服」の件を広く公表すると対象の生徒も勇気づけられ受検者増にもつながるのではないか。
- サッカー部以外の生徒の自己肯定感やスクールプライドとなるような学校の特色づくり、教育内容づくりが求められている。
- 教育課程の内容が真に生徒の成長と社会参画意識の高揚につながるよう取り組んでほしい。
- 授業参観、学級懇談会、PTA活動も徐々に活発になることで保護者のアンケート結果も変わってくる。地域に開かれた学校づくりを実践してほしい。
- 生徒を積極的にボランティアに出していることは良いことである。生徒の自己効力感にもつながる。
- 地域での生徒の態度は挨拶もよく大津町にある高校として誇らしく感じている。
- スクールミッションにもある多様性への取り組みを進めてほしい。一例として制服の改革などが考えられる。地域の中学校ではすでに一歩前に踏み出した。
- コロナ対応の緩和に取り組んでおり良いことだと思う。今後も子供中心に考えてほしい。
- 学校評価アンケートについて、回答数が増えるよう収集の方法等を工夫する必要がある。
-

## 5 総合評価

新型コロナウイルスが感染拡大と収束を繰り返す中、学校行事等は適宜感染拡大防止措置を講じながらできる限り実施した。体育大会や文化祭等無観客での開催であったが、YouTube等の配信を行った。また、入学式や卒業式では、来賓や在校生の参加はできなかったが、保護者を迎えての式を挙行することが出来た。しかし、修学旅行においては、感染のリスクを考え、1年生は次年度に延期し、2年生は残念ではあるが中止を決定した。

部活動においては、熊本県内リスクレベルの変化により、日常の練習や県内練習試合、県外遠征などの規制があり、十分な練習が出来たわけではなかったが、公式試合は開催された。そのような中で、サッカー部が冬の選手権大会で全国準優勝の結果を残し、本校関係者、大津町、熊本県の多くの方々に感動を与えてくれた。

生徒会も主体的な活動が多く見られ、文化祭や卒業式での演出、クリスマスツリーの制作、校則や制服について生徒指導部やPTAと話し合いをするなど、生徒自らが楽しい学校生活をおくるための提案をしていた。ホームページで紹介した様々な学校の様子が評価されるべき活動である。

今年度の重点目標の4つの実践については以下のとおりである。

### ア 学力の向上と進路指導の充実

担任を中心に日常的な個別面談や個別学習指導を日々行うことができた。また、1・2年生の数学、英語では展開授業を行い、基礎基本の徹底に重点を置き、応用力の育成も図った。一斉授業と並行させながら、応用力を高める個別指導を充実させることで、各学年の対外模擬試験等で成果をあげることができた。また、3年においては総合型選抜、学校推薦型選抜入試において合格に繋がった。

### イ 部活動の活性化と自主性の尊重

日課を変更し、放課後の時間を確保することで、平日の部活動の活動時間や職員と生徒との面談等の時間が確保された。体育大会や文化祭、クラスマッチなどでは、生徒会が主体となり、企画、調整、運営を行った。

### ウ 「あいさつ」「そうじ」等を基盤にした生徒指導の徹底

登校指導での声掛けとあいさつ指導や、各HRや集会等で継続的な服装指導を実施することで、今年度は指導対象者が減少した。職員間の共通理解を図る研修を実施し、年間を通して統一した指導ができた。生徒も必要性を理解している。美化委員会と保健委員会を中心として、掃除方法等の紹介や環境教育の充実に努めた。

### エ 「思いやりの心」「慈しむ心」を育む道德教育・人権教育・特別支援教育の推進

「恕の心ウィーク『心のきずなを深める月間』」を実施し、命の大切さを学ぶ教室などを通して、教職員の意識の向上、生徒の心の教育を図った。担任や学年主任との面談を随時行い、必要な場合はSCとの面談も実施した。アンケートや面談からいじめ事案が発見され、生徒が我慢せず相談しやすい環境にある。

## 6 次年度への課題・改善方策

○学習習慣

○イノベーションハイスクール事業への取り組みに向けた「総合的な探究の時間」と理数科の「課題研究」の計画の完成を進める。

○業務改善と働き方改革を進める。

○授業や家庭学習において、ICT機器の活用をさらに進める。

○日課表の見直しと部活動、放課後の活用を充実を図る。